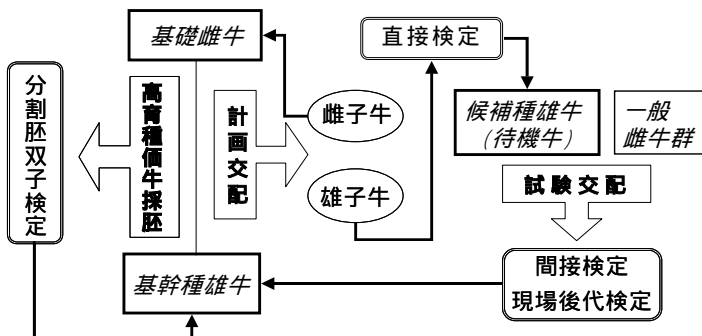


優良県有種雄牛「北孝福」「菊鶴雪」の作出

平成9年度産肉能力検定（直接法）で選抜された候補種雄牛6頭について、平成12年度に同検定（間接法）を実施し遺伝的産肉能力を推定した。

その結果、2頭の候補種雄牛の検定成績が特に優れていたことから、凍結精液の供給を開始した。

〔種雄牛造成の概要〕



種雄牛造成の概要

基幹種雄牛と基礎雌牛との交配により種雄牛候補を生産し、直接法により候補牛の飼料効率や体型等を調査する。間接法では候補牛の去勢雄子牛8頭を肥育し、枝肉形質を調査して基幹種雄牛となる個体を選抜します。

表1「北孝福」「菊鶴雪」間接検定成績(kg、cm²、cm、%)

項目	北孝福(n=7)	菊鶴雪(n=8)	全国平均(n=437)
日増体量	0.82 ± 0.1	0.84 ± 0.1	0.92 ± 0.13
1kg増体TDN	7.05	6.71	-
枝肉重量	347 ± 30.5	334 ± 26.6	355 ± 39.0
枝肉歩留り	60.6 ± 1.4	59.8 ± 0.8	-
ロース芯面積	51 ± 3.8	42 ± 3.8	47 ± 7.0
皮下脂肪厚	1.8 ± 0.4	2.1 ± 0.5	2.0 ± 0.6
バラの厚さ	5.8 ± 0.4	5.7 ± 0.5	6.3 ± 0.7
推定歩留	73.9 ± 0.5	72.6 ± 0.8	73.5 ± 1.2
脂肪交雑	3.0 ± 0.8	3.0 ± 0.7	2.6 ± 0.9
枝肉格付	A5:4, A4:2, A3:1	A5:6, B5:1, B4:1	A5:39.6%, A4:33.2%

産肉能力検定（間接法）の概要

北孝福、菊鶴雪とも日増体量は全国平均を下回ったものの、北孝福については脂肪交雑、ロース芯面積、推定歩留および皮下脂肪厚で、菊鶴雪については脂肪交雑で全国平均を上回る良好な値を示した。枝肉格付における上物率（4等級以上割合）は、北孝福では85.7%、菊鶴雪では100%といずれも全国平均の72.8%を上回った。



産肉能力の特徴

これら種雄牛における産肉能力の特徴は脂肪交雑が入りやすい点であり、一般肥育成績においても良い結果が期待される。

写真左 菊鶴雪 調査牛 No.2
母の父：菊谷 母方祖父：恒徳
枝肉重量 344 kg A 5

写真右 北孝福 調査牛 No.6
母の父：茂宏 母方祖父：寿高
枝肉重量 377 kg A 5